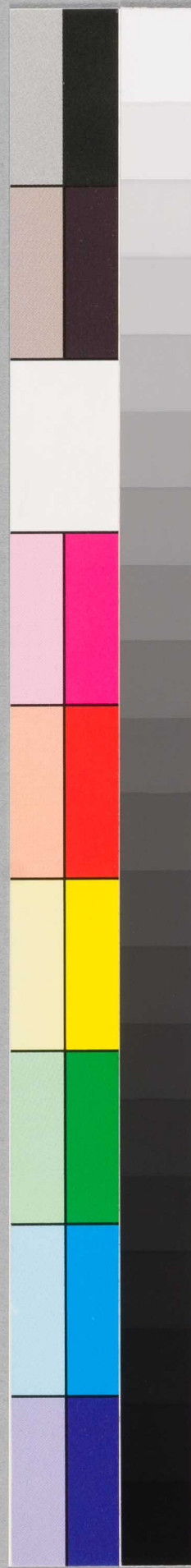




增補
小思西用記
三



小兒必用書
乳多量
腫病
け章不取

小兒必用書 育英卷三

牛山翁

香月啓益

張

一 小兒諸病乃統下

○小兒の病大小と形くゝハ吐乳より起ると保嬰篇に
見たり小兒乳とあまら事あらず病乃きざれと
分りてよく尋ね療治すべきなり 二陳湯は加減
して用べきなり 連翹砂仁を加へて用るるは
吐乳の症は乳の在るを熱虚実ととりて連翹を用
と記しを緩ゆる秘すべき事なり

○孫對微乃記小兒の我言に瘡といふ病ハは中皆同く

一く我鳥乃に仲れあうこま胃中け熱毒なりと云
 つく和倍香にとひ又い右ふとぎとつふり昆布と
 玉焼めく細くゆて多る粥よつけて右乃に中
 をくけバる玉焼はつきく白くおるれく金る
 里かー右ふあむ味あきバ小兒啼くはるあ
 ねわるとあうくけくこやかろけ治る中なる我
 には後と治るは黄連と細末く客よとときく付
 れハ強ぬー我書に後よて小兒乳と吮乳わくは
 子加減清胃散と用べー黄芩黄連升麻
 石膏連翹辰砂黄柏生甘草各ホ右細末
 してさゆくもろー炙薬ゆくもろー

○生る子の後よ上臍腫く右乃下は肉出来ものあり
 室舌と名付とくろり和倍は小舌といふよく強き
 療治とくさる中額の下乃中は麝香の穴と云
 あわるといふは灸する中へは壯やぐらバ小舌あぐり
 く金る中里秘蔵乃事なる室舌乃症ー當歸連
 翹湯と用べー當歸尾連翹白芷各ホ
 大黃甘草右乃の灸れち小にうく服と
 かげんく氷ぐりゆて煮る用也ーく強ぬー
 ○嬰童面同は木舌乃病ハ心脾乃積熱けくはあなり
 舌症舌腫く濁くは脹大くしては汗は漏塞なり室
 舌木舌若くは葉葉ハ當歸連翹湯と用べー蒲黃の

右細末さいま一く大き方はたるる唐たう乳に一く重おもろろ色いろれどく
 うろとと三さん十じ三さん板いたととろろ核かくととろろ中ちゆう母ぼ巴い豆づ
 とと一ひと粒りゅうつつれれくく三さん十じ三さん板いたををけけれれくく一ひと粒りゅう
 麩ふととああままととねねくく唐たう乳にととつつとと紙しををみみりりととつつと
 水みづははいいちちくくめめのの灰はいははけけくく煨ゐくく細さいろろのの唐たう乳に
 のの中ちゆう乃の巴い豆づととろろ唐たう乳にとと竹ちく炭たんととこころろににろろ
 くく右みぎのの細さい末ま乃の茶ちやととろろりりつつとと時ときにに末ま糊こ少せうとと加かつつ
 九くどど丸がん葉や乃の重おも二に分ぶんめめくく金きん箔ぱくとと夜よははけけくく
 一ひと分ぶんはは一ひと丸がん葉や乃の二に分ぶんとと年ねん乃の板いたををみみりりととこころろにに
 用もち又また生なま姜きやう湯たうをを用もちくくよよ一ひと甚しんとと時ときにに薄はく荷かのの唐たう乳に
 用もち又また生なま姜きやう湯たうをを用もちくくよよ一ひと甚しんとと時ときにに薄はく荷かのの唐たう乳に
 用もち又また生なま姜きやう湯たうをを用もちくくよよ一ひと甚しんとと時ときにに薄はく荷かのの唐たう乳に

方はたハハ除じよ去きよ劑じ乃の方はたととななくく一ひと減げんくく予よがが家けをを
 取とりり付つくく事こと乃の方はためめくく大だい細さい末まのの事ことををみみりりととこころろにに
 驗けんめめれれががれれいいせせ乃の方はためめくく大だい細さい末まのの事ことををみみりりととこころろにに
 一ひと切きりりぬぬ

○急きう驗けん凡はんははももハハ大だい便べんとと下げくく利りととけけりり事ことををみみりりととこころろにに
 備び急きう丹たん乃の方はたととななくく一ひと減げんくく予よがが家けをを
 よよててたたははいいのの靈れい妙めう丸がんをを下げくく一ひと減げんくく予よがが家けをを
 各かくにに巴い豆づ 姜きやう蚕さん 各かくハハ大だい黄わう 二に五ご 輕けい粉ふ 五ご
 右みぎ細さい末ま一ひとてて水みづ糊こととろろ九くどど丸がん乃の方はためめくく大だい細さい末まのの事ことををみみりりととこころろにに
 或あるハハ客かくををてて移うつりりくく用もちるるもも有ありり靈れい妙めう丸がん乃の方はためめくく大だい細さい末まのの事ことををみみりりととこころろにに

ろり石菖蒲春ふけを茶と金銀湯にて用ふとあり
と介乃ちよとけ末乃茶と金銀湯にて用ふとあり
とわやまりなりと金銀湯の事なり河澄の記
は金銀薄荷と即金銀薄荷是也今家園中
薄荷乃葉圓しく小いの其形を根葉は細くろり
義なりとゆきとる薄荷乃葉湯にて用ふ事
ありとありぬ人いふとせんとけりて用ふ
利は既除去南乃とせとぬ疏よつまびくろり心
切とす事なり

○急驚風愈るに洞理よと六君子湯
白茯苓 陳皮 半夏 各半 人参 白朮
甘草 茯苓 各半 人参 白朮

子湯といふとけ人參よハ朝鮮人參なりハ二重加へし
物解熱人參なりハ二重なりハ二重なりハ二重なり
黄ド用べー近來京師の醫者ハ二重なりハ二重なり
事と入る事とせむれと付る醫者の事なり付
は事とつとつとつとせむれ病家ハ二重なりハ二重なり
とけいせいのくせとせむれハ二重なりハ二重なり
事ハ二重なりハ二重なりハ二重なりハ二重なり
これ茶と事とつとつとつとせむれハ二重なりハ二重なり
しく茶と事とつとつとつとせむれハ二重なりハ二重なり
くハ二重なりハ二重なりハ二重なりハ二重なり
脾胃と補ハ二重なりハ二重なりハ二重なりハ二重なり



驗とあるもや注夏病も瘧疾なりともいふ所の病を
いなり

○あ瘧疾を治すに用ひる薬をいふべしあるをいふ

四味肥兒丸 黃連 蕪荑仁 神曲 麦芽 各末

右細末し水糊して丸とし用ひべし毎服一二十丸

そのゆゑの大小より用ひて一陳皮川棟子を加へ
赤痢肥兒丸と名づけ共瘧疾を治すの妙

薬也

○加味肥兒丸 胡黃連 木香 枳榔 黃連

三稜 莪朮 青皮 陳皮 神曲 香附子

麦芽 蘆薈 史君子 右細末し丸とし用法常の

ぶく丸ぬめ丸なるをいふとくわく丸ふべきなり瘧疾
瘧疾身熱腹脹大に瘧疾泄瀉なるをいふ
用く驗ふ

○本邦の醫者は他より保嬰圖といふ妙方あり
方中花よりある所の法の醫者と考ふる所の事
すゑく保嬰圖の名をいふは方といふ名別なり
本邦の保嬰圖の名をいふは方といふ名別なり
の方人の流しに南唐の人より傳へるといふ事
をいふ方には乾海參の根毒をいふ事
へる方よりいふ瘧疾をいふ用く奇妙な驗ある事
をいふは保嬰圖の妙方なりといふ事

一がうーそんみあうぞんバ使へぐに申るる

○小兒は癰積の瘰とて腹のうらうらと塊ありて横こ

り室熱とせざる病あり瘰うどほりまきりりり

或ふれと出瘰又わたりひちど和倍のふけるなり

肝湯と用くよー

柴胡 白茯苓 猪苓 三棱 莪朮 山查子

澤泻 各一 黄芩 白朮 半夏 人参 各八 胡黄連

甘草 各三 右利して生薑大棗を加へく黄芩ト

用べー瘰疾癰疾の瘰け方と用とまへる瘰疾の

ぶー

○癰瘰の病とて熱熱とせー五心 五心とて胸と腹のふれ

カカと 癰瘰とて熱熱とせー五心 五心とて胸と腹のふれ

瘰疾一形憔悴なりとのありてくハ瘰疾の瘰け方と

とく瘰疾ふよみれ瘰疾の瘰け方と用とまへる瘰疾の

○瘰疾の瘰け方と用とまへる瘰疾の瘰け方と用とまへる

用とくよー或ハ緩緩色の腸とて瘰疾の瘰け方と用とまへる

銅ろ子れなり和とて赤色のなり肝とて瘰疾の瘰け方と用とまへる

○瘰疾の瘰け方と用とまへる瘰疾の瘰け方と用とまへる

ハ瘰疾とて瘰疾の瘰け方と用とまへる瘰疾の瘰け方と用とまへる

ざるり保きと用とくよー又瘰疾の瘰け方と用とまへる

と用とくよー 黄芩 陳皮 白朮 白茯苓 甘草

軟石膏 各五 右利して水まで煮ト用しと瘰

仲のぶら

○保嬰婦人必証と流に事ありめく腹の
 と潰し赤く爛る者あるまれば解腹の病とみ
 く脾胃の氣弱きあらうとみたり又鼻のト赤く
 爛る者ありあらも脾胃より肺氣より生る
 中欠ありとあらう一黃連黃柏葛根と細辛と蜜
 の水みぎみと膏(玉)とみぎく付やし ちり粉薬
 とをまき付てもよい

○孩仲陽の証は胎毒の瘡熱毒熱して瘡とせ
 るなりとあらう熱いもいれあひのしめを瘡わぬ
 まさ一ふく面はせざるに其瘡を極密く封じ

うまのしりく一あはありくしあをを和倍よ
 うとつしをよりくくしとわい膿汁せくは
 を録りつとつりくくをを瘡といふ和倍をを
 とすひとふそ海蓮根切るはほ似るなり
 了本邦中兒醫師を家にはせと一とふ妙方
 あるなり也一と月とさつりるはト一と和倍
 る事あらうとあらうと瘡弱なる中兒は下はすなれ
 け胎毒と治るもの海陽湯と和倍とつり子主瘡
 まも中兒熱いもの一と和倍胎毒の氣ぬき病
 きがし事わくど必下と系と和倍一とみたり

○五瀉丸の証は中兒丹毒の瘡は頭面胸背或は手足

あることありてあつて腫くおとらざればそゝ勢熾ぶと
 痛甚し一はせ勢毒なりと云へし和信あれとあつて
 ことひくことくもことく葱とより爛くこと付せし
 いちりり又赤小豆の粉と雞子清とをこしつゝ
 とけて付せし一は津腑湯と用ゐる一は病のきけり
 あつてよく勢に上りての勢毒なりと云へし一は病
 一は腫よせあへて腹膨張せよあへて傷るがごとく
 る者へ必死なりなり犀角消毒飲と用ゐる一は荊芥穗
 防風 黄芩 牛蒡子 各一 犀角 甘草 各一
 右利く一は水煎一服してよきことと
 ○小兒の勢毒なりと云へし一は病癰なりと云へし一は病癰と生る事

ある一は和信いぜんもことく外麻葛根湯に加減し
 用ゐる 升麻 葛根 白芍薬 各一 甘草 各一
 右利く一は水煎一服してよきことと
 子荊芥と加へて用ゐるがごとく一は病癰なりと云へし一は病癰と生る事
 乃病癰癰の病癰よりつけ薬といふなり薬をいふ
 ものと云へし一は病癰なりと云へし一は病癰なりと云へし一は病癰なりと云へし
 せりく息なりくめて呼吸せりて死るなり或は通身
 浮腫し一は病癰なりと云へし一は病癰なりと云へし一は病癰なりと云へし
 ○嬰初病は毒胸毒背の毒は一の病根なりと云へし一は病癰なりと云へし
 毒の背れどく腫より上りて頸よりく腫く毒
 のどくあるといふ毒胸も又胸より上りて頸よりく腫く毒

要の形は似たりけ病ありハ痲痺なりと云ふるも又初生
の時背と冷し或いまだ尻背の如く冷ぬはきは
あつと云うるもつらむむむ必け病と云ふはなりと
なりけ病れきばけりあつと云ふは痲痺よりハの痲痺
とれり痲痺よりハ治する事遅かれハ痲痺のせむれ
きしと云うるもはけり痲痺と云ふなり 痲痺は
はけ病と和俗せりといふも是れを付くるはけ病
出るなりと云ふハ肥兒丸瘰癧瘰癧保嬰堂瘰癧湯は
瘰癧に用くを効ぬ 本邦乃ハ肥兒丸瘰癧湯
け病ハ腎氣乃ハ腎と云ふハ六味八味の地黃丸を用
人をもあつと云ふも一術なりハ中ハ肥兒丸瘰癧湯

を効くもや一也黄耆の効れり薬とぬぬるは
を黄耆一効くはぬきなりと云ふ
○錢仲陽乃ハ腎ハ小兒ハ腎瘰癧ハ病ハ足膝弱く瘰癧細
く瘰癧乃ハ腎ハ似たりと云ふは瘰癧なり是れつと云ふ
よけりハ肥兒丸瘰癧湯はありけ病ハ瘰癧なりと云ふ
云ふハ中ハ肥兒丸瘰癧湯ハ病ハ足膝弱く瘰癧細
傷寒瘰癧の瘰癧よりハ行方ふけり瘰癧と云ふ
瘰癧のきざりてやなりと云ふハ瘰癧よりハ瘰癧よりハ
瘰癧と云ふは瘰癧なりと云ふハ瘰癧よりハ瘰癧よりハ
瘰癧よりハ瘰癧よりハ瘰癧よりハ瘰癧よりハ瘰癧よりハ
人參 黃芪 當歸 川芎 熟地黃 白芍藥 各一

ちふは降るとゆふけんと申津よつまきありて予
 は信よりてひその比は兎とや下に承はちりされぜハ
 の衆よりりれ子めどもつて頸懸く背骨のゆる
 るは其は鶴の足はびくやせく背骨十七八の推の
 めて産らるゆにんく後よ生疎やれぬとまきも
 されりてはとありありなる足と伸て申のりた
 の足と下より一なる足とよよりてあらぐくの
 こ座よりあらぐの足ととりてたをいれけ
 てそのるは枕やれぬとまきみく玉はあつていた
 ちん足とくきくありたをいれぬはたぬれ足ありて
 くるくる枕やれぬ推いりたるまき申よとて

やるめく産又始れぐくたと下よ者とよまな
 一ちあらぐく産らるるやうななみびく
 産人うん中とこれひくうまびく後とやん
 予脈と診一飛とくくは病治と一これ共一ぬ
 と産ぐんは治とくくは一ぬと産くけ兎十五
 年よぬ精字はのりく産る勢ありてまき金
 愈へ一そのる葉と用はつて使くるるべしといひく一
 方とありて
 黄芩 熟地黄 山茱萸 山茱萸 白茯苓 川芎 白芍薬
 角膠 鹿板 各二 熟附子 肉桂 蒼朮子 海
 桐皮 木瓜 薏苡仁 牛膝 虎脰骨 穿山甲

てうーゆひ日と経るも後中て熱はくーして
煩しき時病とわゆる瘧疾と云ふ事あり

○小兒の諸病大人は勢を半減し上より下病を
とる小兒は下より上とわけてあるなり夫
と云ふ一類の病はそれれ醫者の病門と云ふなり
瘧疾と云ふはそれなり小兒は用をわける業
と云ふ事あり

○小兒の風と云ふは六淫散ふよう
白朮 白茯苓 桔梗 括蕒根 細辛 薄荷 各半
甘草 芍薬 右水煎し一服とす一咽痛固乾と云
ハ葛根と云ふ熱甚き時ハ葛根と云ふ瘧疾の序病

と云ふ事あり何ハ連翹升麻葛根と云ふ嘔吐
泄瀉吐乳と云ふは半夏陳皮連翹と云ふは
括蕒根と云ふ小兒の風と云ふは
け菜と云ふ

○小兒驚風と云ふは風を食得たり合ぐれば加減
心氣散より一 藿香 白朮 厚朴 陳皮 白
茯苓 大腹皮 桔梗 白芷 各半 甘草 芍薬 黃芩
右一劑とて生薑とわづ水煎し一服とす吐乳
る者嘔吐と云ふは白芷と云ふは破仁と云ふは
○小兒脾胃弱と云ふは泄瀉と云ふは
と云ふ吐乳と云ふは

小兒錢氏の七葉白朮散と申すもの一葉散と云く
陳皮 砂仁 白扁豆 と加へて用へばよいと云ふ

○小兒泄瀉 腹瀉 腹痛 痢疾 と云ふものと云ふもの東垣
の茯苓湯と申すもの

澤瀉 白茯苓 芍薬 白朮 茯苓 木香 枳實 肉桂 猪苓
甘草 右利とて用へばよいと云ふ

更一 小兒脾胃虚弱 腹瀉 腹痛 と云ふもの

人参 白朮 白茯苓 山薬 白扁豆 蓮肉 茯苓
砂仁 黄芩 仁 甘草 右利とて用へばよいと云ふ

と加へて用へばよいと云ふもの

○小兒腹瀉 腹瀉 腹痛 と云ふもの

人参 白朮 白茯苓 山薬 白扁豆 蓮肉 茯苓
砂仁 黄芩 仁 甘草 右利とて用へばよいと云ふ

と加へて用へばよいと云ふもの

○小兒腹瀉 腹瀉 腹痛 と云ふもの

人参 白朮 白茯苓 山薬 白扁豆 蓮肉 茯苓
砂仁 黄芩 仁 甘草 右利とて用へばよいと云ふ

と加へて用へばよいと云ふもの

○小兒腹瀉 腹瀉 腹痛 と云ふもの

人参 白朮 白茯苓 山薬 白扁豆 蓮肉 茯苓
砂仁 黄芩 仁 甘草 右利とて用へばよいと云ふ

と加へて用へばよいと云ふもの

